

## 平成23年度 第4回教育研究評議会議事録

日時 平成23年7月20日(水) 14時45分～18時35分  
場所 事務局大会議室・工学部大会議室(テレビ会議)  
出席者 伊東、石井、碓氷、柳澤、山崎、浅利、船橋、杉山、佐藤、寺村、今野、梅澤、國宗、塩川、荒川、酒井、西原、増田、青山、塩尻、東郷、佐古、竹内、鈴木、渡邊修、澤田、永津、渡邊尚、田中、村井、加藤の各評議員  
欠席者 三村評議員  
陪席者 大戸、塩田の各監事  
中村、木村の各学長補佐

### I 議事録の承認について

平成23年度第3回教育研究評議会議事録(案)を原案どおり承認した。

### II 審議事項

#### 1 静岡大学評価規則の一部改正について

#### 2 静岡大学におけるハラスメントの防止等に関する規程の一部改正について

総務部長から、評価会議委員及びハラスメント防止対策委員会委員を指名した場合における経営協議会・教育研究評議会への報告義務規定を削除するための標記規則等の一部改正について、資料1により説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

#### 3 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター規則の一部改正について

#### 4 静岡大学教員の任期に関する規則の一部改正について

梅澤委員から、教育学部附属教育実践総合センター教育実践部門に教員養成スタンダード分野を設けると共に、当該センターに新たに採用する専任教員に任期を付すことに伴う標記規則の一部改正について、資料2により説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

#### 5 国立大学法人静岡大学情報システム運用基本規則の制定について

情報企画課長から、国立大学法人静岡大学情報システム運用基本規則の制定について、資料3により説明があり、審議の結果、施行日を平成23年7月20日に修正したほか原案どおり承認した。

なお、議長から、今後、実施規程等を整備していく際には、各部局の協力をお願いしたい旨依頼があった。

#### 6 カリキュラム改革について

石井委員から、前回本会議で提案したカリキュラム改革の基本方針に関する

る各部局から出された意見及び単位制度の実質化の一貫としてのキャップ制の導入等について、資料4により説明があった。

種々意見交換を行った後、石井委員から、キャップ制の導入に関する各学部の意見を10月の本会議で伺いたい旨発言があった。

なお、議長から、10月の本会議で各学部の意見を伺うこととするが、9月の本会議で、できるなら進捗状況、中間報告を願いたい旨依頼があった。  
(意見交換で出された主な意見：カリキュラム改革)

- 本件に関する教育研究評議会、教育企画室、大学教育センターでの議論の在り方を整理をしていただきたい。
- 外国人教員を含む過去の経緯を踏まえた議論も必要である。
- 問題のポイントを整理して議論すべきである。

(意見交換で出された主な意見：キャップ制)

- 留年生が増加してしまうのではないか。
- 設置基準をベースにした機械的な運用ではなく現実を踏まえた議論が必要である。
- 集中講義にキャップ制を適用するのか。

## 7 静岡、浜松キャンパスにおける研究組織の研究分野について

碓氷委員から、前回の本会議で審議した標記のことについて、理系部局から意見を伺いたい旨発言があり、各部局から次のとおり意見があった。

理学…学部運営が困難になる。

農学…方向性は理解した。

情報…人員の配置が困難になる。

工学…3つの分野になったプロセスが不明確。

改組を進めるため、新研究所が変わったという印象が必要。

電研…コアメンバーの役割分担を明確にしていきたい。

コアメンバーが決定しないと議論を先に進めることが難しい。

創造…研究分野の方向性は良いが、人事を含め詳細が決まらなると議論できない。

続いて、碓氷委員から、席上配付資料により静岡大学研究拠点構想について、説明があった後、種々意見交換の結果、東西キャンパスをまたぐ研究領域及び同領域の二つの設置形態の基本的内容について承認した。

(意見交換で出された主な意見)

- コアメンバー選出を本部独自で決められると学部として運営に支障が出る。
- 人件費削減が続く中で、新研究所等の組織改変をした場合、学部教育は成り立つのか。
- 部局のあり方も変える必要がある。
- 始めからコアメンバーの人数ありきでは、学部教育の弱体化につながるので、バランスが必要である。

- 学部教育をないがしろにするような人員配置をすれば大学として機能しなくなる。
- プロジェクト推進は個人ではなく、全学的に取り組んでいく必要がある。
- 博士課程と修士課程の連携が必要であり、静岡キャンパスと浜松キャンパスを融合した運用形態にすることが重要。
- 2つの研究所は部局扱いになるのか。

なお、議長から、新研究所等が本務になる教員の位置づけ、人事の在り方及び新研究所の名称については、今後、検討したい旨発言があった。

### Ⅲ 報告事項

#### 1 企画戦略会議報告

議長から、第4回企画戦略会議（H23.7.6）について、資料6により報告があった。

#### 2 経営協議会報告

議長から、第1回経営協議会（H23.6.24）について、資料7により報告があった。

なお、委員から、決算報告書全体像のホームページ掲載及び部局決算書の部局への配付について要請があった。

#### 3 学長補佐の任命について

議長から、7月15日付けで2名の学長補佐を新たに指名したことについて、資料8により報告があった。

学長補佐（国際戦略担当） 村井久雄

学長補佐（組織整備担当） 木村雅和

#### 4 静岡大学安否情報システムを用いた学生及び教職員の安否確認に関する要項の制定について

山崎委員から、標記要項の制定について、資料9により報告があった。

#### 5 静岡大学防災プロジェクトについて

山崎委員から、静岡大学防災プロジェクトについて、資料10により報告があった。

#### 6 学生の安否確認訓練の実施について

山崎委員から、学生の安否確認訓練の実施について、資料11により説明があり、協力依頼があった。

なお、委員から、学生の防災教育の観点から年間の防災のスケジュールを作成する等の対応が必要ではないかとの意見があった。

## 7 基幹情報システムの災害対策等について

酒井委員から、基幹情報システムの災害対策等について、資料12により報告があった。

なお、議長から、山口大学との相互バックアップ体制の構築については、大学間での連携となるため、時期をみて協定締結を含め提案したいとの発言があった。

## 8 静岡大学大学院学生の学部授業受講に関する申合せについて

石井委員から、前回本会議において承認された標記申合せ中、2(2)のプログラム名が、先の大学院委員会で名称変更が承認されたことに伴い、当該申合せの名称を変更した旨資料13により報告があった。

## 9 平成23年度科学研究費補助金の交付について

研究協力課長から、平成23年度科学研究費補助金の交付について、資料14により報告があった。

なお、議長から、科学研究費執行額を交付決定額の7割の範囲内とするよう要請があった。

## 10 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)について

加藤委員から、大学図書館コンソーシアム連合について、資料15により報告があった。

## 11 ブルガリア共和国ソフィア大学との大学間交流協定締結について

村井委員から、標記大学間交流協定締結について、資料16により報告があった。

## 12 農学部と南アフリカ共和国プレトリア大学自然科学・農学部との部局間交流協定締結について

村井委員から、標記部局間交流協定締結について、資料17により報告があった。

## 13 教員採用等報告について

議長から、資料11により、法務研究科1件の教員採用の報告があった。

## IV その他

### 1 平成23年度静岡大学FD夏期研修会について

石井委員から、平成23年度静岡大学FD夏期研修会について、資料19により教員への周知及び出席要請の依頼があった。

### 2 その他

議長から、学長特別裁量経費について、戦略的に執行したいことから、同

経費の措置が必要な場合は今月中に要求願いたい旨発言があった。

以 上